

平成29年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成30年5月

沖縄市（沖縄県）

○計画期間：平成28年4月～平成33年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点(平成30年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、平成28年3月15日に第2期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、「住みたい・訪れたい魅力あふれるコザのまち」～来街者・居住者が集う持続可能な交流街へ～をテーマに、「コザ文化の魅力を活かしたにぎわいづくり」、「住む人目線で良好な生活ができるまちづくり」の2つの基本方針のもと、同計画に掲げる90事業に取り組んでいる。

中心市街地の現状としては、「商店街店舗リフォーム事業」等の活用により、創業及び起業支援施設や飲食店等が新規に開店し、空き店舗の解消に繋がっている他、「商店街賑わい創出事業」や「音のページェント事業」等によるイベントが、商店街やコザ・ミュージックタウンを中心に継続的に展開されたことにより、沖縄市としてのイメージアップと来街者の集客につながっている。また、「沖縄こどもの国イベント事業」についても継続して実施され、沖縄こども未来ゾーンの来場者の増加に繋がっている。

生活環境の改善については、新市立図書館の整備が完了し、利用者の増加がにぎわいの創出に繋がっているほか、運動公園内に屋根付きの多目的広場が整備された。その他、居住環境の改善として「中心市街地定住促進事業」に取り組んでいる。

以上のように、拠点機能とソフト事業を組み合わせた多様な主体による連携した取組により、歩行者通行量や施設利用者数は一定の成果を保っている。しかし、居住人口については依然として減少が続いている状況であるため、今後も継続して中心市街地の生活環境の改善に取り組んでいく必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(中心市街地区域)	平成27年度(平成28年4月1日時点) (計画期間開始前年度)	平成29年度(平成30年4月1日時点) (フォローアップ年度)
人口	18,794人	18,079人
人口増減数	▲517人	▲492人
社会増減数	▲401人	▲370人
転入者数	482人	699人

2. 平成29年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

沖縄市中心市街地活性化協議会では、総会のほか、必要に応じ幹事会及び合同のエリア委員会を開催し、基本計画の進捗状況の確認や各種の取組みについて確認し、意見交換が行われた。

事業に遅れが生じていた主要なハード事業の整備が概ね完了し、基本計画に位置付けられた事

業は順調に進捗しているものと考えている。

拠点施設の整備後、その集客の回遊性を向上させ、中心市街地全体へ効果を波及させる策が課題となっている。今後も、課題解決のため継続して意見交換を行い、中心市街地の活性化に取り組むべきである。

当協議会においては、今後も行政や関係団体等と相互に連携を図りながら、地域が自主的かつ自立的に取り組めるよう、総合的かつ一体的に中心市街地の活性化を推進していく。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目 標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
まちなか交流 の促進による にぎわいの 創造	歩行者通行量 (休日)	8,866 人/日 (H26)	9,380 人/日 (H32 年)	6,936 人/日 (H29 年)	①	①
	観光関連施設の 入込客数(人/年)	448,961 人/年 (H26 年)	683,207 人/年 (H32 年)	541,192 人/日 (H29 年)	①	①
中心市街地全 体としての付 加価値の向上 による生活環 境の改善	都市福利施設の 年間利用者数(人/年)	829,808 人/年 (H26 年)	867,308 人/年 (H32 年)	846,370 人/年 (H29 年)	③	③
	居住人口の増減率 (%)	▲5.6% (H21～26)	▲4.4% (H28～33)	▲11.3% (H24～29)	②	②

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

①目標指標「歩行者通行量(休日)」及び「観光関連施設の入込客数」について

- ・「歩行者通行量（休日）」については、当該目標の達成を図るための各事業の着実な実施により、中心市街地のにぎわいを徐々に取り戻しつつあるが、現時点では基準値を下回っている。「山里第一地区市街地再開発事業」や「(仮称) 青年エイサー会館整備事業」について、整備が完了したことから、現時点で事業効果が発現していないが、引き続き関連事業を推進していくことで目標達成は可能と考えている。
- ・「観光関連施設の入込客数」については、各種イベントが、コザ・ミュージックタウンを中心に継続的に展開されたことにより、音楽のまち沖縄市としてのイメージアップと来街者の集客につながっている。また、沖縄こどもの国イベント事業についても継続して実施され、沖縄こども未来ゾーンの来場者の増加に繋がっている。引き続き関連事業を推進していくことで目標達成は可能と考えている。

②目標指標「都市福利施設の年間利用者数」及び「居住人口の増減率」について

- ・「都市福利施設の年間利用者数」については、新市立図書館が整備されたことで利用者数が大幅に増加している。遅れが生じている一部事業についても引き続き事業を推進していくことで目標達成は可能と考えている。
- ・「居住人口の増減率」については、「山里第一地区市街地再開発事業」の整備が完了したことから居住棟への入居により居住人口の増が見込まれる。また、「中心市街地住宅整備促進事業」については引き続き実施中だが、居住人口の減少も続いていることから現時点で効果は限定的であり、減少率の改善には繋がっていない。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

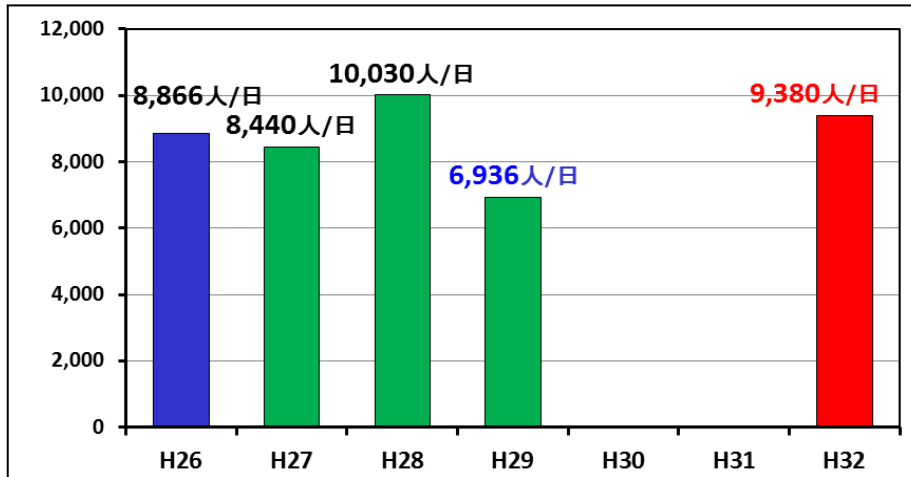
前回の定期フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者通行量（休日）」 ※目標設定の考え方基本計画 P69～P74 参照

●調査結果の推移

歩行者通行量（休日）推移



年	
H26	8,866 人/日 (基準年値)
H27	8,440 人/日
H28	10,030 人/日
H29	6,936 人/日
H30	
H31	
H32	9,380 人/日 (目標値)

※調査方法：歩行者通行量調査

※調査月：毎年6月調査

※調査主体：沖縄商工会議所

※調査対象：8調査地点の歩行者及び自転車

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 「(仮称) 青年エイサー会館整備事業」(沖縄市)

事業完了時期	H29年度【済】
事業概要	文化遺産である「エイサー」が鑑賞できる演舞場、観客席、体験施設等を集客施設であるコザ・ミュージックタウン内に整備し運営することにより、観光拠点として展開する。
事業効果及び進捗状況	集客拠点として展開することにより、まちなかのにぎわいを創出し、地域の観光活動及び消費活動を刺激することにより、経済効果へと繋げる。 平成29年度末には整備工事が完了し施設が併用されているため、今後は、施設利用者数の増加から歩行者通行量(101人/日)の増加を見込む。

②. 「図書館建設推進事業」(沖縄市)

事業完了時期	H28～【実施中】
事業概要	複合商業施設「コリンザ」をコンバージョンし、市民ニーズが高く、利便性の向上が求められている図書館を移転・整備後、必要な資料の購入や図書システムの導入等を実施する。
事業効果及び進捗状況	<p>中心市街地における都市福利施設の充実及び強化を図り、まちなかへの来街者拡大により、にぎわいを創出するとともに、良好な生活空間の創出に繋がる。</p> <p>平成28年度末に施設整備が完了し、平成29年5月には併用を開始している。平成29年の年間利用者数は、191,963人、本の収蔵増加数が39,336冊となっている(平成29年度末時点で本の収蔵数は、224,861冊)。引き続き、書籍の増や図書環境の向上を図ることにより、更なる歩行者通行量の増加を見込む。</p>

③. 「(仮称)雇用促進施設等整備事業」(沖縄市)

事業完了時期	H30年度【実施中】
事業概要	中心市街地における複合施設の改修に伴う、企業等へのレンタルオフィスなどを備えた、新たな雇用促進施設の整備事業。
事業効果及び進捗状況	<p>中心市街地における雇用機会の創出と個人企業家の起業機会を創出することにより、まちのにぎわいを創出するとともに、都市機能の充実を図る。</p> <p>完成した際には、歩行者通行量(274人/日)の増加を見込む。</p>

④. 「山里第一地区市街地再開発事業」(沖縄市)

事業完了時期	H29年度【済】
事業概要	地域の生活拠点の核づくりを目指し、住宅棟、商業施設棟など地域の生活利便性ならびに公益性の高い施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	<p>まちなか居住の促進により、コミュニティ(地域力)の再生を図る。</p> <p>平成29年末には整備工事が完了しており、今後の集客から、歩行者通行量(89人/日)の増加を見込む。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成29年度は、実績値が基準値を下回っているが、主要事業は概ね順調に進捗している。新市立図書館の併用開始や「(仮称)青年エイサー会館」及び「山里第一地区市街地再開発事業」の整備が完了したことから、今後の施設利用者数の増加による歩行者通行量の増加を見込む。今後も主要事業の確実な実施により効果を発現させ、新規の集客施設と既存のソフト事業を総合的に実施し中心市街地内全体に効果を波及させることにより、目標の達成は可能だと考える。

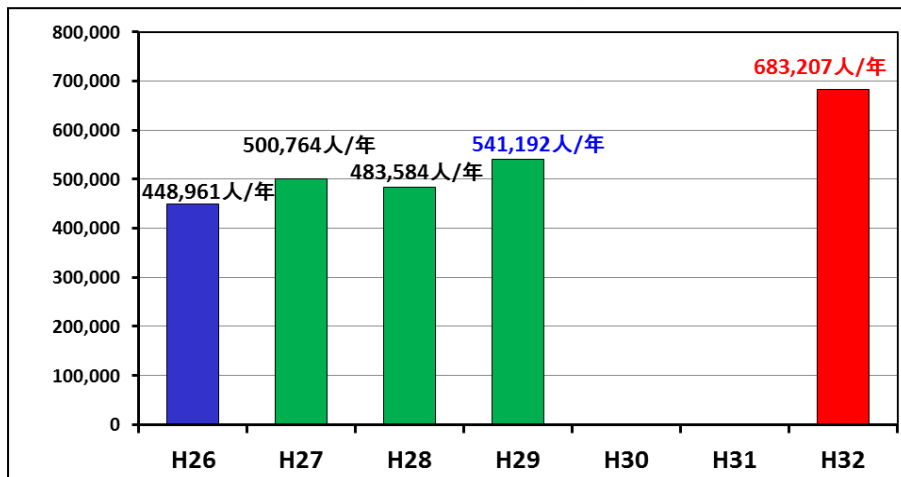
平成28年度は、調査時において、調査地点付近で複数のイベントが開催されたため、歩行者

通行量が例年と比べると大幅な増となっていた。このため、平成29年度は、平成28年度と比べ大幅な減となっている。

「観光関連施設の入込客数」 ※目標設定の考え方基本計画 P75～P78 参照

●調査結果の推移

観光関連施設入込客数の推移



年	入込客数
H26	448,961人/年 (基準年値)
H27	500,764人/年
H28	483,584人/年
H29	541,192人/年
H30	
H31	
H32	683,207人/年 (目標値)

※調査方法：各施設からの報告による実績値合計

※調査月：毎年1月に取りまとめ

※調査主体：沖縄市

※調査対象：中心市街地内の観光関連施設（4施設）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 多目的アリーナ整備事業（沖縄市）

事業完了時期	H32年度【実施中】
事業概要	中心市街地の拠点施設でもあるコザ運動公園内における、地域の交流、観光誘客施設としての多目的アリーナの建設。
事業効果及び進捗状況	県内外から人々が集い観光誘客施設として、まちなかへの効果的にぎわい創出へと繋げるとともに、将来的な需要の喚起実現へと繋げる。 平成29年度から工事に着手しており、完成した際には、施設入込客数(175,000人/年)の増加を見込む。

②. 「(仮称) 青年エイサー会館整備事業」(沖縄市)

事業完了時期	H29年度【済】
事業概要	文化遺産である「エイサー」が鑑賞できる演舞場、観客席、体験施設等を集客施設であるコザ・ミュージックタウン内に整備し運営することにより、観光拠点として展開する。
事業効果及び進捗状況	集客拠点として展開することにより、まちなかのにぎわいを創出し、地域の観光活動及び消費活動を刺激することにより、

経済効果へと繋げる。

平成 29年度末には整備工事が完了し施設が併用されているため、今後は、多くの施設入込客数(26,000人/年)を見込む。

③. 沖縄こども未来ゾーン運営（関連事業：沖縄こどもの国イベント事業（公益財団法人沖縄こどもの国））

事業完了時期	H17～【実施中】
事業概要	こどもの育成・学習をメインに様々なイベントの開催。
事業効果及び進捗状況	中心市街地に足を運ばせる機会の創出を図り、中心市街地活性化へと繋げる。 観光関連施設入込客数の増加を見込む。

●目標達成の見通し及び今後の対策

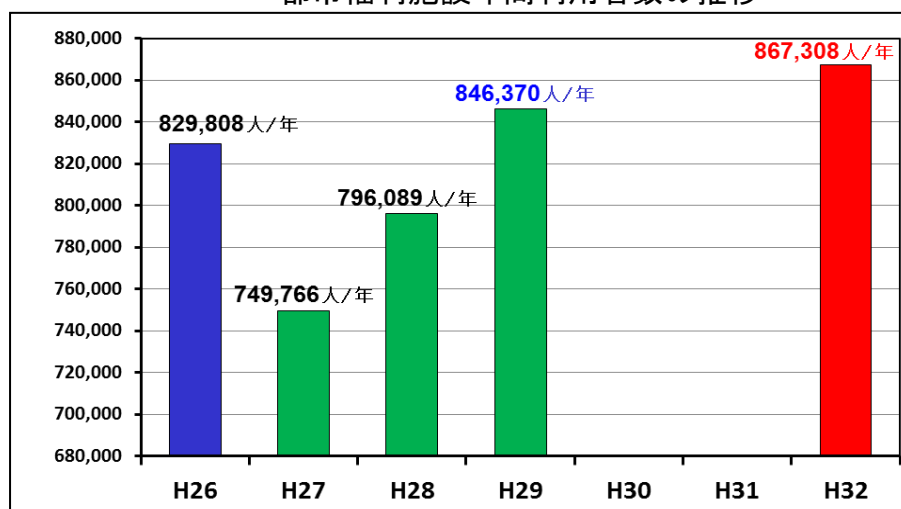
観光関連施設の入込客数については、前期計画から引き続き活性化事業に取り組んだことにより、観光関連施設の入込客数の最新値が基準値より増加傾向を示していることから、前計画終了後も来街者が増加し、にぎわいが創出されていると考えている。

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと考える。その他の主要なハード事業が完成し併用されたのちには、新規の集客施設と既存のソフト事業を総合的に実施することで、中心市街地内全体に効果を波及させる必要がある。

「都市福利施設の年間利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P78～P81 参照

●調査結果の推移

都市福利施設年間利用者数の推移



年	利用者数 (人/年)
H26	829,808 人/年 (基準年値)
H27	749,766 人/年
H28	796,089 人/年
H29	846,370 人/年
H30	
H31	
H32	867,308 人/年 (目標値)

※調査方法：各施設からの報告による実績値合計

※調査月：毎年1月に取りまとめ

※調査主体：沖縄市

※調査対象：中心市街地内の都市福利施設（4施設）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 図書館建設推進事業（沖縄市）

事業完了時期	H28～【実施中】
事業概要	複合商業施設「コリンザ」をコンバージョンし、市民ニーズが高く、利便性の向上が求められている図書館を移転・整備後、必要な資料の購入や図書システムの導入等を実施する。
事業効果及び進捗状況	<p>中心市街地における都市福利施設の充実及び強化を図り、まちなかへの来街者拡大により、にぎわいを創出するとともに、良好な生活空間の創出に繋がる。</p> <p>平成28年度末に施設整備が完了し、平成29年5月には併用を開始している。平成29年の年間利用者数は、191,963人、本の収蔵増加数が39,336冊となっている（平成29年度末時点で本の収蔵数は、224,861冊）。引き続き、書籍の増や図書環境の向上を図ることにより、施設入込客数(30,400人/年)の増加を見込む。</p>

②. (仮称) 雇用促進施設等整備事業（沖縄市）

事業完了時期	H30年度【実施中】
事業概要	中心市街地における複合施設の改修に伴う、企業等へのレンタルオフィスなどを備えた、新たな雇用促進施設の整備事業。
事業効果及び進捗状況	<p>中心市街地における雇用機会の創出と個人企業家の起業機会を創出することにより、まちのにぎわいを創出するとともに、都市機能の充実を図る。</p> <p>完成した際には、施設入込客数(7,100人/年)の増加を見込む。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

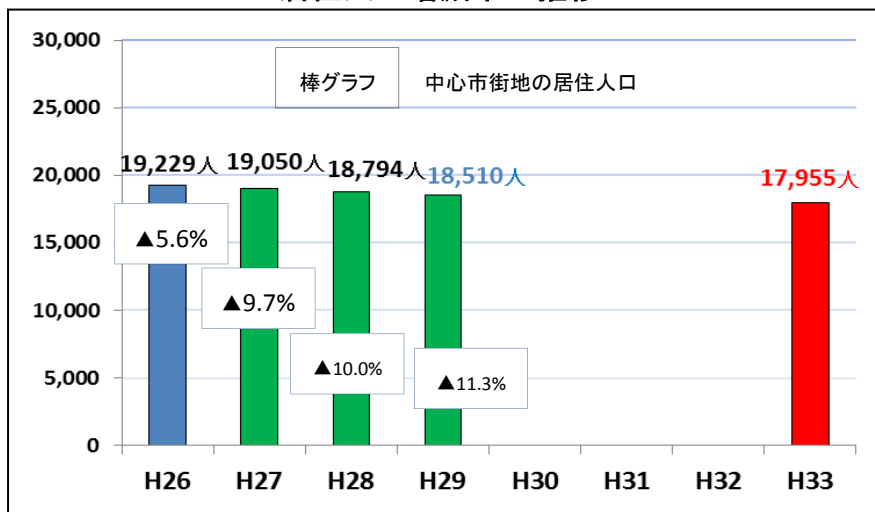
都市福利施設の年間利用者数については、新市立図書館が完成したことにより、着実な効果が見込まれる。

今後は、目標が確実に達成できるよう「図書館建設推進事業」を着実に推進し、「(仮称) 雇用促進施設整備事業」については若干の遅れがみられるが、都市機能の充実と生活環境の改善に向けた取り組みを進めることにより、目標達成は可能であると考えている。

「居住人口の増減率」 ※目標設定の考え方基本計画 P81～P82 参照

●調査結果の推移

居住人口増減率の推移



年	増減率
H26	▲5.6% (基準年値)
H27	▲9.7% (参考)
H28	▲10.0% (参考)
H29	▲11.3% (参考)
H30	
H31	
H32	▲4.4% (目標値)

※過去5年間の減少率

※調査方法：住民基本台帳より

※調査月：毎年4月1日時点

※調査主体：沖縄市

※調査対象：中心市街地内における居住人口（過去5年間の減少率）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 「山里第一地区市街地再開発事業」（沖縄市）

事業完了時期	H29年度【済】
事業概要	地域の生活拠点の核づくりを目指し、住宅棟、商業施設棟など地域の生活利便性ならびに公益性の高い施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	まちなか居住の促進により、コミュニティ（地域力）の再生を図る。 平成29年末には整備工事が完了しており、整備された新設住宅の戸数は、69戸（内権利変換戸数33戸）となり、今後、居住人口（88人）の増加を見込む。

②. 「安慶田市営住宅建替事業」（沖縄市）

事業完了時期	H30年度【実施中】
事業概要	建築後40余年が経過し老朽化が著しい市営安慶田団地の建て替え。
事業効果及び進捗状況	多様な世帯に対する住宅給付により、コミュニティ（地域力）再生を図る。 事業が完了した際には、居住人口（53人）の増加を見込む。

③. 中心市街地住宅整備促進事業（沖縄市）

事業完了時期	H27～【実施中】
事業概要	中心市街地内にある古い建物を除去し住宅を整備する際の建物除去費用の一部補助。
事業効果及び進捗状況	<p>中心市街地内の老朽化した住宅の所有者に対して、その除却に係る費用を助成することにより、住宅の供給誘導を図り、中心市街地内における良好な居住環境を整備改善することで、良好な生活空間を創出する。</p> <p>平成28年度は、補助件数1件で新設住宅の戸数が1戸、平成29年度は、補助件数6件で新設住宅の戸数が8戸となっている。</p> <p>定住促進に寄与しているが、現時点では見込んでいた新設戸数には至っておらず、効果が限定的である。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

居住人口の増減率については、最新値が基準値を下回っている。居住人口は、社会増減、自然増減ともに減となり、依然として減少傾向となっているため、現時点にて目標値の達成は見込まれない。

「山里第一地区市街地再開発事業」については、整備工事が完了し併用したため、今後、居住棟への入居により居住人口の増が見込まれる。また、「中心市街地住宅整備促進事業」については引き続き実施中だが、居住人口の減少も続いていることから現時点で効果は限定的である。引き続き、「中心市街地住宅整備促進事業」の活用促進に取り組むとともに、他事業の効果から中心市街地の魅力向上を図り定住促進へ繋げ、減少率の改善に取り組んでいく。